

# 見直し機運強まるテック株の上値余地は大きい？



チーフ・ストラテジスト 石黒英之

## ポイント① テック株を見直す動きが再び強まる

中東情勢を巡る不透明感が残る中でも、テック株主体で構成されるNASDAQ-100が22日に再び最高値を更新するなど、テック株への見直し機運が強まっています。背景には生成AI（人工知能）需要の拡大があるとみられ、地政学リスクとは別軸で、企業業績の成長確度が相対的に高い分野に資金が向かっている構図といえます。

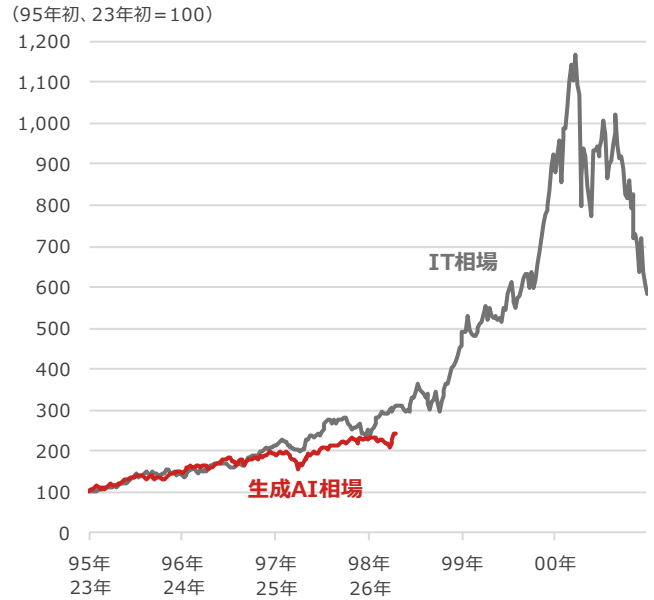
現在の相場をバブルとみる向きもありますが、過去の相場と比較すると様相は異なります。Windows95の発売をきっかけとした95～00年のIT相場ではNASDAQ-100が約5年で12倍と急騰しました。一方、生成AI相場が本格化した23年以降は2.4倍程度の上昇にとどまり（右上図）、利益成長に沿った株価上昇となっている点が特徴です。過去との対比からも過熱感は相対的に限定的とみられます。

## ポイント② テック株の上値余地はなお大きい

生成AIは「競争加速→投資拡大→技術革新」という好循環に入りつつあり、今後もテック企業の収益拡大を支える可能性が高いとみられます。利用人口や利用時間の拡大余地を踏まえると、生成AI市場の成長ポテンシャルは大きいといえ、業績面から株価を押し上げる構図が続くそうです。

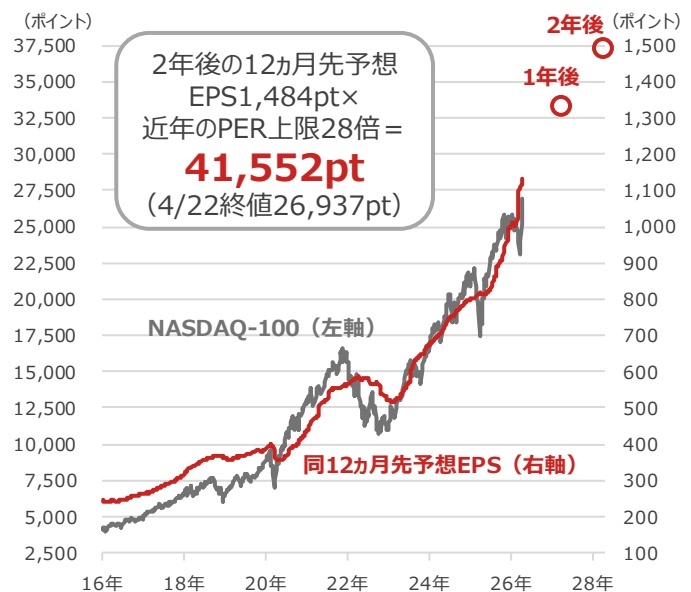
株価は中長期的に企業収益に収れんする傾向があります。2年後のNASDAQ-100の12ヵ月先予想EPSをもとにすると、指数の上値余地は41,000ポイント超となる計算です（右下図）。利益成長が続く限り、テック株は業績拡大に沿った形で株価の上昇基調を維持する公算が大きいと考えています。短期的な変動に左右されるのではなく、中長期視点でテック株の先行きを見通すことが重要です。

### IT（情報技術）相場と生成AI（人工知能）相場のNASDAQ-100の推移



期間：（IT相場）1995年1月6日～2000年12月29日、週次  
（生成AI相場）2023年1月6日～2026年4月22日、週次  
・Windows95が発売された95年初をIT相場の起点、生成AI需要が急拡大し始めた23年初を生成AI相場の起点とした  
（出所）Bloombergより野村アセットマネジメント作成

### NASDAQ-100と 同12ヵ月先予想EPS（1株当たり利益）



期間：2016年1月8日～2026年4月22日、週次  
・印は1年後、2年後の12ヵ月先予想EPS（2026年4月22日時点のBloomberg予想）  
（出所）Bloombergより野村アセットマネジメント作成

\*当資料は、一部個人の見解を含み、会社としての統一の見解ではないものもあります。

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認ください。

## 野村アセットマネジメントからのお知らせ

### ■ ご注意

下記に記載しているリスクや費用項目につきましては、一般的な投資信託を想定しております。費用の料率につきましては、野村アセットマネジメントが運用するすべての公募投資信託のうち、投資家の皆様にご負担いただく、それぞれの費用における最高の料率を記載しております。投資信託に係るリスクや費用は、それぞれの投資信託により異なりますので、ご投資をされる際には、事前によく投資信託説明書（交付目論見書）や契約締結前交付書面をご覧ください。

### ■ 投資信託に係るリスクについて

投資信託は、主に国内外の株式や公社債等の値動きのある証券を投資対象とし投資元本が保証されていないため、当該資産の市場における取引価格の変動や為替の変動等により投資一単位当たりの価格が変動します。したがって投資家の皆様のご投資された金額を下回り損失が生じることがあります。なお、投資信託は預貯金と異なります。また、投資信託は、個別の投資信託毎に投資対象資産の種類や投資制限、取引市場、投資対象国等が異なることから、リスクの内容や性質が異なりますので、ご投資に当たっては投資信託説明書（交付目論見書）や契約締結前交付書面をよくご覧ください。

### ■ 投資信託に係る費用について

以下の費用の合計額については、投資家の皆様がファンドを保有される期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

2026年4月現在

ご購入時手数料 《上限3.85%（税込み）》	投資家が投資信託のご購入のお申込みをする際に負担する費用です。販売会社が販売に係る費用として受け取ります。手数料率等については、投資信託の販売会社に確認する必要があります。 投資信託によっては、換金時（および償還時）に「ご換金時手数料」等がかかる場合もあります。
運用管理費用（信託報酬） 《上限2.222%（税込み）》	投資家はその投資信託を保有する期間に応じてかかる費用です。委託会社は運用に対する報酬として、受託会社は信託財産の保管・管理の費用として、販売会社は収益分配金や償還金の取扱事務費用や運用報告書の発送費用等として、それぞれ按分して受け取ります。 * 一部のファンドについては、運用実績に応じて報酬が別途かかる場合があります。 * ファンド・オブ・ファンズの場合は、一部を除き、ファンドが投資対象とする投資信託証券の信託報酬等が別途かかります。
信託財産留保額 《上限0.5%》	投資家が投資信託をご換金する際等に負担します。投資家の換金等によって信託財産内で発生するコストをその投資家自身が負担する趣旨で設けられています。
その他の費用	上記の他に、「組入有価証券等の売買の際に発生する売買委託手数料」、「ファンドに関する租税」、「監査費用」、「外国での資産の保管等に要する諸費用」等、保有する期間等に応じてご負担いただく費用があります。運用状況等により変動するため、事前に料率、上限額等を示すことができません。

投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断下さい。